

幼児の笑顔

文學士 源 良 英

幼児の笑顔は實に無邪氣な神々しい表情であります。こんな麗しい表情を古來精密に研究したものが尠ないのは誠に遺憾な事だと思ひます。只兒童心理學の大家ブライエル氏が多少精密な觀察をして居りますから、今氏の説を骨子として、それに時々他の學者の研究を挿入して次に述べやうと思ひます。

幼兒は生れて後、幾日目から初めて笑ふかといふ事に就ては、屢々あやまつた觀察を下すものが多いのであります。幼兒が口角を引上げるのを見て直ぐに微笑を洩して居ると云ふ人もありますが、それは決して笑ふのではなく、丁度吾々成人に於ても口を歪めることと微笑とは、まるで無關係の事があるのと同じ様であります。この口角を引き上げることは一般に満足な感じや、氣持のいゝこ

とを示す表情であります。此等の單純な感じは、只顔面神經の興奮を引起す丈で、微笑を洩す様なことはないのであります。

殊に生れてから餘まり日數のたゝない子供に於ては、快感と結び付く様な感覺は非常に僅かで、言語の意味から愉快を感じる様なことは勿論あらう筈がありません。母親の乳を飲んだり、暖たかい寢床に寝たりして満足してをる子供も、生れた初めの日には微笑を洩す様なことはなく、只満足な顔付を表はして、口角が少しく引上げられるのを見るばかりであります。若し世人がこの顔付を以て微笑と名付けますならば、眠つた乳呑子は非常に早くから笑ふと言はなければなりません。何となれば私の子供は生後十日目に睡眠中恰も微笑の際の様な口付をし、頬には蹙ができ、眼は閉ちて居るが全體の顔付が非常に愛らしく見えました。十二日目には覺醒時に於ても、時々顔面の筋肉が活潑に動く様になりました。明かに微笑の顔と名付

くる事の出来る様になりました。しかし此表情には微笑を完全にすることに必要な意識を缺いて居ることは、恰も前に述べた睡眠中の笑ひと同一であります。二十六日位になつて子供の感覺と其に伴ふ感情との區別が一層よく出来る様になります。と、微笑は一の模擬的表情となるのであります。幼児が充分に乳を飲みますと眼をパツチり開き、其後に半ば閉ぢ、何とも形容し難い満足な容貌を表はしまして、喜んで居る母の顔の方を眺めますしかし喜びの調子に適する音聲は少しも聞えませず、尙又母の顔や母の胸などの知覺は勿論ないのです。此際笑の模倣も亦起りませぬ、何となれば此時の子供は無生物を見ても笑ふものでありますから、四ヶ月以前には模倣的運動は決して起らないと斷言して宜しからうと思ひます。

初期の笑の運動や、此比較的完全な笑は共に満足の状態と密接に關係してをりますが、これは苦痛の際の叫聲と同じ様に、祖先以來傳はりて來たも

のと考へても差支ありますまい。又子供は他より笑ひかけられると常に笑ふときまつては居りませぬ。少しも子供の見た事のない他人がニコニコ笑つて來ても、子供は笑ひたい様な、眞面目な様な不思議な顔付をなすものであります。だから子供の最初の笑なるものが、後年になりては只一片の挨拶の爲に形式的に笑ふ様に發達變化する事は到底考へられ相もない様に見えます。

機嫌のいゝ時や、又睡眠中に新しい愉快な、満足之感によりて生ずる微笑は、後年まで繼續するものであります。乳兒が満足する場合、例へば私の子供に生後八週目に音楽を聞かせました所が、眼が非常に光輝を増し、手や足の運動が活潑となり、微笑或は哄笑を明かに表はしました。

この愉快、満足の時に微笑を初めて呈するのは、生後幾日目であるかといふ事は觀察者によりて多少相違がありまして一定して居りません。ハイフエルダー氏は幼兒が生後四週間に満足の表情や

として、初めて微笑を洩したと述べて居るし、チヤムブネース氏は六週乃至七週目に、ダーウイン氏は七週乃至九週目に、シギスモンド氏は七週乃至十週目に初めて幼児の笑ふのを見たと書て居ります。(譯者曰、日本の子供では安田氏の觀察した男の子は生後三十四日目及び三十五日目に初めて笑ひ、關氏の女の子も亦三十四日目に笑ひました)が、しかし澤山氏の觀察した女の子は四十四日目に笑つたそうであります。)

幼兒が鏡面に寫れる像を見て初めて笑ひましたのは二十七週目でありますが、十週目に笑つた子供もあります。しかし後の子供は其後十七週目までは少しも笑ひませんでした。哄笑になると微笑よりも、ずつと後に表はれるもので、私は百十三日目までは鏡を見て笑はなかつた子供が、百十六日目になりて哄笑を發したのに驚きました。(譯者曰、マンテガツア氏の子供は微笑は生後四十日目より六十日目に見られたが、哄笑は三ヶ月後に表

はれたと書てあるし、ダーウイン氏も子供の哄笑を百十三日目に見たと述べて居ります。だから哄笑は微笑から漸次に發達したものであるといふ説をなすものが多いのであります。この通り鏡を見て笑ひますのは、珍らしい像に就て知覺したのを喜んで笑ふのでありますから、表象に伴ふ笑であります。大に發達した形式であります。十四週目位になりますと、味のいゝものを食つたり、肌さはりのよい暖かい衣服を着たり、氣持のよい音を聞いたり、或は腹一杯に乳を飲んだりした時には、笑を引起すもので、折々高い聲を出して笑ひます。子供は感じが鋭敏でありますから、少し氣持のわるかつたり、腹が減つたりしますと、決して笑ふものでありませんが、其等の不快感が除去されると、すぐに口角を引上げてニコ／＼笑ふものがあります。(譯者曰、それだからカークバトリツク氏は幼兒の笑の原因は一に有機的であると申して居ります。)

微笑から漸次哄笑へと移りて行くもので、謂はゞ
 微笑は強度の強い、音聲の高い微笑であります。
 愉快な感官刺激の爲に生ずる最初の哄笑は、かの
 滑稽な事を知覺する際に生ずる、自我感情の昂ま
 るのと全く別物であります、殆んど生後六週乃
 至十七週目位に表はれるものであります。プリニ
 ユース氏は子供が生後四十日位經過しなければ、
 哄笑は無いと云つて居りますが、私の子供は二十
 三日目に眼が光る計りでなく、明かに哄笑の表
 情を示しました。即ち此際子供は其前にある淡蓄
 薇色の幕を見て非常に喜び、一種特有の満足の叫
 聲を發し、且つ口角が引上げられるのを見ました。
 此時また入浴をさせましたが、其際は少しも哄笑
 を表はすことなく、只眼を大きく開いて満足の容
 貌を示すに過ぎませんでした。其後哄笑は重に快
 感が高まりました時の表情となりまして、例へ
 ば五週乃至六週目及び八週目には奇麗な色に光り
 て居るものが穏やかに振動するのを見たり、又は

翼琴の演奏を聞たりする際に此種の哄笑が屢々表
 はれました。
 六週目乃至九週目に子供が母親の顔を眺めて哄笑
 を發しました。又笑顔をして點頭いたり、親しい
 者が歌つて聞かせたりすると、非常によく笑ひ、
 之が六ヶ月位後になると大満足の表徴として、
 腕を急ぎ上げたり下げたりする様になります、
 か様な子供らしい手の運動は約一年許り、喜悅の
 際の哄笑に伴つて起るのであります。新奇な愉快
 なものを見て聲高く笑ふことは、九ヶ月目頃最も
 多いのですが、新らしい面白い音を聞いて哄笑を
 發するのは十五ヶ月頃が最多いのであります。
 一年許りたちますと笑の際の運動の性質がちがつ
 てきまして、子供は以前よりも一層多くの理解力
 を以て笑ふやうになります、十一ヶ月頃になると
 鏡に寫つて居る自分の姿を見て笑ひ、或は其が動
 いて居るのを見て喜びます。一年の終りになりま
 すと、自分から笑ふ計りでなく、他人が笑ふのを

見て、模倣的に笑ふ様になるのであります。二年の終り頃には詐りの笑を認め、四年の子供にては嘲けりの笑を示し、長く続く笑の際には涙が出るやうになります。

笑ふ時に齒が表はれたり、口角が引上りて口が横に廣がり、一種の音聲を出し、眼の輝き方がまじたり、涙が出たり、快感に伴ふ腕の運動が始まりたりするの、どうして起るかといふ原因は、未だ知る事の出來ないのであります。ダーウィン氏が笑は叫泣の起り程早くない、何となれば叫泣は乳兒に取りて笑よりも一層必要であつたからと申して居りますのは正當な説だと私は思ひます。しかしダーウィン氏が微笑は七週目に初まると言つて居るのは、初期の笑を看過したといふのではなくて、恐らく子供に於ける個人的相違によるのでありませう。殊に氏が哄笑は十七週目に表はると言つたのに徴しても個人的相違は明かだ、其の他に四圍の境遇や、保護者の事情なども其副因とな

つて居るのであります。中にも出生當時は殆んど微笑を含まない快感の表情を表はすが、其表情からして四ヶ月位になると、漸次意識的の笑に移りて行くのは、是れ大脳の發達に伴つて明瞭なる表象が生ずるに至るからであります。擦られて笑ふのは二ヶ月位から表はれるもので（譯者曰、ダーウィン氏は身體を擦りて笑はすのと、精神を擦りて笑はすのと相似て居ると申して居ります。）三歳位になれば普通の笑ひ聲と、擦られて起る笑ひ聲とが隣室からでも明瞭に區別して聞き取れる様になります。子供の腋下を擦ると笑ひ出すが、猿も亦腋下を擦られて大に笑ふものでありますから、此等は實に遺傳的の性質を帯びて居ると言はねばなりません。

齒へ笑へ二つになる今朝からは

(一茶)